

化学教育における国際社会との橋渡しをめざして 国際関係小委員会

1 はじめに

国際関係小委員会は、化学教育分野での国際的な動向・活動と国内の化学教育界の橋渡しの役割を果たすことを主な任務としています。このために、次のような活動を必要に応じて行っています。(1) 化学教育における国際交流活動の窓口、(2) 国際純正および応用化学連合 (IUPAC) やアジア化学会連合 (FACS) の化学教育関係の活動との連携、(3) 化学教育国際会議 (ICCE) やその他の国際会議の化学教育関係のプログラムへの対応、(4) 化学教育協議会がおこなうべき国際的な調査・提言・プロジェクトなどについての原案作成および実行体制の確立と調整、(5) 国内の化学教育に関する国内の有用な情報の国際的な発信、など。

今回は、現在進行中の活動について紹介します。

2 高校化学教育内容の国際的な位置づけ

本年度から国際化学オリンピックに正式参加することになった関係で、最近改訂されたこの競技のシラバスが、全国高校化学グランプリ・国際化学オリンピック小委員会の訓練担当 WG によって翻訳されました¹⁾。シラバスでは、高校～大学初級の化学に対応する数百の項目が3つのレベルに分類されています。レベル1は「各国のほとんどすべての高校で取り扱っている項目」、レベル2は「過半数の高校で取り扱っている項目」、レベル3は「ほとんどの高校で取り扱っていない項目」となっています。国によって事情は異なりますし、対象がオリンピック代表のためやや高めに設定されているでしょうが、このレベル付けはそれなりの考え方に基いて行われている世界の「平均値」に近いものといえます。

これと指導要領の項目とを比較すれば、「現行の学習指導要領で取り扱われている内容は国際的にみてどのような位置づけにあるのか」について、ある程度の回答を与えることができそうです。そこで、訓練担当 WG の活動と協力して、昨年度後半から項目ごとにシラバスの評価と指導要領での取り扱いとの比較検討を始めました。現在は、(1)シラバスで「レベル3」だが指導要領で取り上げられている項目と(2)シラバスでは「レベル1」だが指導要領では取り上げられていない項目を、それぞれピックアップした段階です。さらに、その理由を探ることにより、国際的に見た場合の日本の高校化学の特徴的な点や問題点を引き出せないか、検討を進めています。検討結果がまとまった段階で本誌に掲載する予定です。

3 Pacifichem 2005 への対応

Pacifichem 2005 は 2005 年 12 月に開催される予定ですが、すでにシンポジウムの提案を受け付け始めています。化学教育は、2000 年の前回と同様に Chemistry and Community (化

学と社会) という部門に含まれています。今回はこのために「Pacifichem では化学教育はなくなった」と誤解され、発表を断念した方もいたかも知れません。少なくとも日本からのシンポジウムの提案や協力は以前に比べて少なかったようです。

そこで今回は、シンポジウムの提案やこれへの協力、そして参加を希望する方のために、本小委員会が何らかの便宜を図れないかと考えています。関心のある方は、今後の本誌の会告や、協議会のホームページ²⁾ に注目して下さい。

4 国際的な情報発信の支援

University Chemistry Departments との協力

本小委員会では、竹内前委員長時代に Chemical Education in Japan Version 2³⁾ を刊行するなど、我が国の化学教育関連情報の国際的な発信に努めてきました。この活動の一環として、数年前に国内の化学関連学科の英文 Web ページの一覧を公開しました。これに対して、英国リバプール大学が運営し、42ヶ国の関係者が協力している国際的な活動である University Chemistry Departments⁴⁾ より協力の依頼がありました。現在は、この活動の掲載方針や書式に沿った形で一覧を公開し⁵⁾、上記のページからリンクが張られています。これによって、日本の化学関連学科の英文 Web ページは、他国の同種のホームページと同様に、University Chemistry Departments のページから参照できるようになっています。

今後もこのページの情報の更新と充実にも努めたいと考えていますが、この種の資料の保守は、関係者のご協力があって初めて可能であるの言うまでもありません。皆様にほこのページをご覧いただき、ご存じの大学の化学関連学科の英文ページが掲載漏れとなっていたり、ページの再編成によりリンク情報が古くなった場合には、速やかに最新情報を委員長宛にお知らせいただければ幸いです。

文 献

- 1) <http://www.res.titech.ac.jp/~shinkin/morig/ICH035web/35icho.html> より入手可能。
- 2) <http://edu.chemistry.or.jp/index.html>
- 3) Web 版は <http://edu.chemistry.or.jp/kyougikai/archives/archives.html> より入手可能。
- 4) <http://www.liv.ac.uk/Chemistry/Links/international.html>
- 5) <http://www.t.soka.ac.jp/chem/univchem.html>

伊藤真人 (創価大学工学部)
化学教育協議会・国際関係小委員会委員長
E mail: itomasa@t.soka.ac.jp

平成 14 年度委員: 上野幸彦 (副委員長), 加茂川恵司, 杉村秀幸, 森 敦紀, 山内辰治, 竹内敬人 (オブザーバー)